

平成 21 年 8 月 20 日

寒河江市立南部小学校
保健室

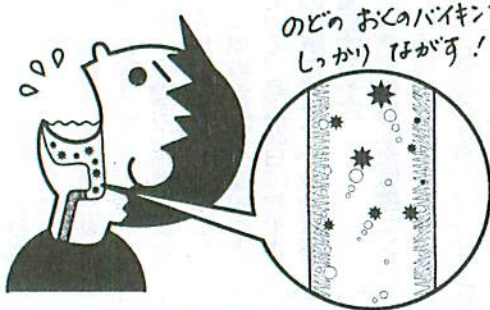
ほけんだより

新型インフルエンザの予防

新学期に入り、学校など集団生活の場で新型インフルエンザが流行することが心配されています。本日の山形新聞にも、県内で感染が広がっているということが書かれており、今後十分に注意し、予防を徹底する必要があります。(裏面の記事もごらんください。)

学校では、本日より「うがい・手洗い」の取り組みとして、中間休み、給食前、掃除のあとに子どもと職員全員が手洗い・うがいを行っていきます。しばらくは放送したり、担任が声を行ったりして定着するようにしていきます。その他、朝休みなど遊んだあとや体育のあとにも必ずうがい・手洗いをするようにしましょう。

家にかえってからも



うがい

学校から帰ったあとはもちろん、買い物やスポ少など、どこかへでかけたときは、必ずうがい・手洗いをわすれずにしましょう!



手あらい

せっけんでしっかりと洗いましょう

マスクの準備はありますか?
予防のほかにも、かぜを人にうつさないために、調子がわるい時はマスクをしよう



調子が悪いときは
むりせず、体を休めよう

おうちの方へ

新型インフルエンザはだれでも免疫がないため、大変かかりやすくどこでうつってくるかわかりません。もしも、新型インフルエンザにかかっている疑いがある時は、必ず受診し、医師の指示を受けてください。

せきや、鼻水などのかぜ症状、発熱などの症状が見られた場合は、無理に登校させず、家で様子を見ていただきますようお願いいたします。

<新型インフルエンザの症状>

- ・ 38℃以上の発熱
- ・ せき、鼻水、頭痛
- ・ はき気や嘔吐など
- ・ さむけ



<インフルエンザの検査について>

一般の医療機関で受けられます。発熱後、8～12時間後に可能。(熱が出てもすぐには陰性になってしまうため)インフルエンザA型であれば、新型インフルエンザの疑いがあり、さらにくわしい検査が必要になります。

国内で新型インフルエンザの本格的な流行が始まったとされる中、県内でも8月に入り、感染が広がっている。患者数は、確認されただけでも累計で約80人上った。患者は10、20代が中心で、夏休み明けの今後、感染の急速な拡大が懸念される。選挙戦のさなかで集会の機会も多く、専門家は「不調のときは外出を控え、感染を広げないで」としている。

県保健業務課によると、県内では7月14日に1例目が発生。患者はタイから帰国した10代女性で、その後も海外渡航歴のある患者3人が発症した。8月5日には、天童市内の中学生3人が感染し、県内初の集団発生を確認。集団発生は16日現在、大学サークルや高校、地域のスポーツ団体など9団体、患者数は疑い例も含め76人(確定患者14人)となった。17日以降も連日、報告されている。

新型インフル 累計で約80人

県内でも感染広がる

国同様、県内でも増加傾向にあり、高校で集団発生し、部活動があるとする。全数調査は行っていないため、実際の患者数は、さらに膨れ上がるという。確認された患者のうち、約3割が10代、約5割が20代。県内の多くの学校は今週から新学期がスタートし、さらなる感染の拡大が指摘されている。

専門家「不調なら外出控えて」

厚生労働省は19日、新型インフルエンザに感染し、今月12日から18日までの1週間に入院した患者は全国で計86人にと発表したが、このうち重症化のリスクが高い基礎疾患(持病)等がある人は死亡した3人を含む36人。医療・福祉施設などをまとめた症例集を医療機関に配布するなどでの集団感染の発生件数は16日まで

過去3週間で入院患者は約1.6倍に増加。集団感染もほぼ倍増するなど流行が本格化。同省は19日、糖尿病やぜんそくなどの基礎疾患がある患者の重症化防止のため、これまでの重症事例への対応をまとめた症例集を医療機関に配布するなど対策を強化する。

県教育委員会は、近く県内全学校にあらためて注意を喚起する通達を出す方針だ。既起する通達を出す方針だ。既

に高校で集団発生し、部活動があるとする。全数調査は行っていないため、実際の患者数は、さらに膨れ上がるという。確認された患者のうち、約3割が10代、約5割が20代。県内の多くの学校は今週から新学期がスタートし、さらなる感染の拡大が指摘されている。



新型インフルエンザの拡大でマスク需要は例年に比べて高まっている

山形市・ドラッグヤマザワ松見町店

新型インフルエンザの拡大で、例年は規模が縮小する夏場のマスク需要が伸びている。一時期と比べて落ち着いた感があるとはいえず、山形市のドラッグストアでは「この時期としてはいつになく売れている。本格的な流行で感染が拡大していることから、今後も需要は伸びそうだ。」

山形市のドラッグヤマザワ松見町店では店舗奥の常設コーナーに加え、今月上旬からレジの前にも陳列コーナーを設けた。3カ月ほど続いた品薄状態は解消され、現在は20種ほどの商品が並ぶ。売れ筋は使い捨ての不織布(ふしよく心)製のマスクで、「60枚の箱入り商品も予想以上に売れている」と同店。また、感染予防用の消毒洗

夏場でも…伸びるマスク需要

浄剤は今も品薄状態が続いているという。新型インフルエンザが流行したことで消費者の間にも再び警戒感が広がり、備蓄用としてまとめ買いつけるケースも。同市内の主婦(62)は「新型インフルエンザが発生して以来、マスクは常備するようになっかけている」とし、同店で6箱分のマスクを購入。「今のうちに買いためておかないと、品薄になった時に不安になる」と話していた。一方、同市内の薬局では、まだ売れ行きが伸び出している状況ではないとするものの、「メーカー側で品薄の状態が続いており、注文しても十分に商品が届かない。今後の在庫確保が不安だ」と話している。